The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国語複合動詞「改V」の語彙概念構造
Author(s)	王, 蓓淳
Citation	大阪大学言語文化学. 2010, 19, p. 97-110
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77811
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中国語複合動詞「改 V」の語彙概念構造*

王　蓓淳**

キーワード：語形成のモジュール性、語彙的「改 V」、統語的「改 V」

本文以 Jackendoff 的概念構造為理論基礎，從語彙概念結構的層面，對複合動詞「改 V」進行考察。我們認為根據詞彙形成的部門加以分類，複合動詞的形成可分成兩種。一種是在詞法部門形成的複合動詞，而一種是則是在句法部門形成的複合動詞。而本文經過一連串的分析，認為「改 V」是同時具有兩種性質的複合動詞。「改變」、「改寫」是屬於詞法部門形成的複合動詞，而「改彈鋼琴」、「改打網球」則是屬於在句法部門形成的複合動詞。

為什麼會出現這樣形成部門不同的兩種「改 V」呢？我們認為這種差異與「改 V」在哪個部門結合，以及怎樣結合有關；另外也和「改」本身的詞匯概念結構有關。本文主張「改變」、「改寫」是屬於詞法部門形成的複合動詞，而「改彈鋼琴」、「改打網球」則是屬於在句法部門形成的複合動詞。我們認為在詞法部門形成的「改變」是由「改」和「變」的內項同定而產生的，「改寫」則是經由手段關係將「改」和後項動詞「寫」作結合。至於在句法部門形成的「改彈鋼琴」、「改打網球」等，則是將後項動詞的詞匯概念結構整體代入「改」的結果變項。

1　はじめに

「変更、変換」といった意味を表す中国語複合動詞「改 V」は、後項に現れる動詞のバリエーションが豊富で生産性が非常に高い。

(1) a. 老師 **改變** 了這次比賽的方式。　(先生は今回試合のルールを変更した)
　　b. 他 **改寫** 了村上春樹的小説。　(彼は村上春樹の小説を書きかえた)
　　c. 我 **改彈** 鋼琴。　(私はピアノを弾くことに変更した)
　　d. 他 **改吃** 牛排。　(彼はステーキを食べることに変更した)
　　e. 他 **改走** 高速公路。　(彼は高速を走ることに変更した)

しかし、詳しく見てみるとすべての「改 V」が同じ意味概念と統語構造を持つとは限らない。本稿は影山 (1993) のモジュール形態論の仮定に基づき、(1a) の「改變」と (1b)

---

* 中文複合動詞「改 V」的詞匯概念結構（王蓓淳 WANG Pei-Tsuen）
** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

の「改寫」は語彙部門で、「改弾」、「改吃」、「改走」などは統語部門で形成されると主張し、「改V」を語彙部門で結合する「改V」と統語部門で結合する「改V」の二種類に分類する。また、語彙的「改V」と統語的「改V」とがそれぞれどのような概念構造を形成するかを明らかにし、「改V」の二面性を示す。

本稿の構成は以下の通りである。まず、2節では様々な「改V」を形態的、統語的、アスペクト的な側面から考察し、「改V」を語彙的「改V」と統語的「改V」に分類する証拠を示す。3節では、単独動詞「改」の概念構造を提案する。4節と5節において、語彙的「改V」と統語的「改V」の概念構造を提案し、後項動詞がどのように「改」と結合するかを分析する。6節はまとめである。

2　二種類の「改V」

モジュール形態論の考え方に従えば、語形成は単一部門だけではなく、統語構造でもレキシコンでも起こりうる。語彙部門で形成されるか、統語部門で形成されるかは語彙的緊密性の違いに反映すると考えられている。2節では、「改V」の語彙的緊密性の高さによって、「改V」を二種類に分類する。また、形態的側面だけではなく、二種類の「改V」は統語的側面、アスペクトの側面にも異なる点があることを示す。

2. 1　形態的側面

まず、結果を表すマーカー「成」を「改V」の間に挿入できるか否かをテストに用いて、「改V」の語彙的緊密性を考察する。(2)と(3)に示すように、「改變(変える)」と「改寫(書きかえる)」は間に「成」を挿入することが許されないが、(4)の「改弾」の間には「成」の挿入が許される。間に「成」を挿入できないことは、「改變」と「改寫」の語彙的緊密性が高く、語彙部門で形成される複合動詞であると考える根拠になりうる。一方、「改弾」は間に「成」の挿入を許容するため、語彙的緊密性が低く、統語部門で形成される複合動詞であると考えるのが自然である。

(2) a. 她 **改變**　了這個孩子。　(彼女はこの子を変えた)
　　b.*她 **改成變**　了這個孩子。
(3) a. 他 **改寫**　了村上春樹的小説。　(彼は村上春樹の小説を書きかえた)
　　b.*他 **改成寫**　了村上春樹的小説。
(4) a. 我 **改弾**　鋼琴。　(私はピアノを弾くことに変更した)
　　b. 我 **改成弾**　鋼琴。

また、(5)に示されるように、「改變」と「改寫」は名詞に転換して用いられることができるが、「改弾」はできない。動詞から名詞への転換が語彙部門での語形成だと考え

れば、この事実も「改變」と「改寫」は語彙部門、「改弾」は統語部門で形成されるという仮定の根拠となる。

(5) a. 在這張專輯的曲風上，他有了很大的 **改變**。

（このアルバムのスタイルにおいて、彼には大きな変化が見られる）

b. 他對村上春樹的小説作了大幅度的 **改寫**。

（彼は村上春樹の小説を対象に、大幅な書きかえを行った）

c.*我對鋼琴作了 **改彈**。

（私はピアノを対象に、弾きかえを行った / 私はピアノを弾くことに変更したという意味）

2. 2　統語的側面

つぎに、統語的な側面においても、語彙的複合動詞「改變」、「改寫」と統語的複合動詞「改弾」が異なる点を見てみよう。まずは目的語を主語とした受動文の容認性についてである。(6)に示す「改變」も、(7)に示す「改寫」も受動化ができるが、(8)に示す「改弾」は受動化を容認できない。それは「改變」、「改寫」は語彙部門で結合して、一つの動詞として受動化の操作を受けられるが、「改弾」は統語部門で形成するので、基底構造では独立した二つの動詞として存在し、単一の動詞として統語操作を受けられないことによると説明することが可能である。

(6) a. 他 **改變** 了小寶。　（彼は寶ちゃんを変えた）

b. 小寶 **被改變** 了。　（寶ちゃんは変えられた）

(7) a. 他 **改寫** 了這篇報導。　（彼はこの記事を書きかえた）

b. 這篇報導 **被改寫** 了。　（この記事は書きかえられた）

(8) a. 我 **改彈** 鋼琴。　（私はピアノを弾くことに変更した）

b.*鋼琴 **被改彈** 了。　（ピアノは弾くことに変更された）

また、「把（Ba)」を用いて目的語を「把」の直後に移動するという統語操作についても、二種の「改 V」が異なる振る舞いをみせる。(9)と(10)に示されるように「改變」、「改寫」は「把」と共起し、目的語を移動することができるが、(11)に示す「改弾」はできない。それも「改弾」は統語部門で形成するので、基底構造では独立した二つの動詞として存在し、単一の動詞として「把」の統語的操作を受けられないことを示唆する。

(9) a. 他 **改變** 了小寶。　（彼は寶ちゃんを変えた）

b. 他 **把**小寶 **改變** 了。

(10) a. 他 **改寫** 了村上春樹的小説。　（彼は村上春樹の小説を書きかえた）

b. 他 **把**村上春樹的小説 **改寫** 了。

(11) a. 我 **改彈** 鋼琴。　　(私はピアノを弾くことに変更した)
　　b.*我 **把**鋼琴 **改彈**。

2. 3　アスペクトの側面

さらに、アスペクトの側面でも二種の「改 V」は異なる振る舞いをみせる。まず、持続を表すマーカー「著」と共起できるかを考えると、(12)に示すように、「改變」と「改寫」は「著」と共起することができるが、「改彈」は共起できないという違いが見られる。また、継続時間副詞「花了三個月(三ヶ月をかけて)」と共起するかを考察すると、(13)に示すように「改變」と「改寫」は継続時間副詞と共起できるが、「改彈」は共起できないという違いもある。この事実は、語彙的複合動詞だと考えられる「改變」、「改寫」は [+DURATIVE] の素性を持つが、統語的複合動詞の「改彈」は [+DURATIVE] の素性を持たないことを示している。

(12) a. 這個城市正在 **改變著**。　　(この町は変化している)
　　b. 他正在 **改寫著** 村上春樹的小説。　　(彼は村上春樹の小説を書きかえている)
　　c.*我正在 **改彈著** 鋼琴。　　(私はピアノを弾くことに変更している)

(13) a. 他<u>花了三個月</u> **改變** 了她刷牙的方式。(彼は三ヶ月をかけて彼女の歯磨きの仕方を変えた)
　　b. 他<u>花了三個月</u> **改寫** 了這套百科全書。(彼は三ヶ月をかけてこの百科事典を書きかえた)
　　c.*我<u>花了三個月</u> **改彈** 了鋼琴。　　(私は3ヶ月をかけてピアノを弾くことに変更した)

さらに、完結時点を表す時間副詞「在三天以内 (三日で)」を用いて考察すると、(14)に示すように、「改變」と「改寫」は「在三日以内」と共起することができ、[+TELIC] の素性を持つと考えられる。一方、「改彈」は「在三日以内」と共起できず、[+TELIC] の素性を持たないと考えられる。このアスペクトでの違いは後で示すように、「改 V」の概念構造が語彙的、統語的複合において異なることによって説明できる。

(14) a. 他 <u>在三天以内</u> **改變** 了她刷牙的方式。(彼は三日で彼女の歯磨きの仕方を変えた)
　　b. 他 <u>在三天之内</u> **改寫** 了這套百科全書。(彼は三日でこの百科事典を書きかえた)
　　c.*我 <u>在三天之内</u> **改彈** 了鋼琴。　　(私は三日でピアノを弾くことに変更した)

2. 4　まとめ

「改變」と「改寫」は語彙的緊密性が高く、間にほかの形態素を挿入できないことから、語彙部門で形成されると考える。語彙的複合動詞「改變」と「改寫」は単一の動詞として受動化などの統語的操作をうけられる。一方、「改彈」は間に「成」の挿入を容認するなど、語彙的緊密性が低く、統語部門で形成されると考える。「改彈」は統語部門で初めて結合するので、基底構造では独立した二つの動詞として存在し、受動化や「把

(Ba)」などの統語的操作を受けられない。複合動詞「改 V」は一見同じ構造を持つが、詳しく見てみるとすべての「改 V」が意味概念や統語的性質において一枚岩とはいえない。3 節から、「改 V」の概念構造を分析する。

3　単独動詞「改」の概念構造

複合動詞「改 V」の概念構造を分析する前に、単独動詞「改」はどんな概念構造を持つかを考える必要があると思われる。『現代漢語八百詞』によれば、「改」には二種類の意味がある。(15a)に示す“あるモノをほかのモノに変更する”という「変更」の意味と、(15b)に示す“あるモノに働きかけをし、そのモノをよくする”という「修正」の意味との二通りである。

(15) a. 會長把開會的地點 **改** 成大会議室。（会長は会議の場所を大会議室に変更した）
　　b. 老師 **改** 了這篇論文。（先生はこの論文を直した）

まず、変更を表わす「改」を見てみよう。変更の「改」は(16)と(17)に示されるように、変更前後の状態を明示しなくてよい。変更前後の状態を明示する場合では、変更前の状態は前置詞「従 NP（NP から）」を、変更後の状態は「成 NP（NP に）」をとることによって表される。

(16) a. 會長把開會的地點 <u>從小會議室</u> **改** <u>成大会議室</u>。
　　（会長は会議の場所を小会議室から大会議室に変更した）
　　b. 會長把開會的地點 **改** 了。（会長は会議の場所を変更した）

(17) a. 老師把上課時間 <u>從九點</u> **改** <u>成十點</u>。（先生は授業の時間を九時から十時に変更した）
　　b. 老師把上課的時間 **改** 了。（先生は授業の時間を変更した）

また、「改」が修正を表す場合では、ある特定の個体に働きかけをし、そのモノをよくするという意味で用いられる。修正を表す「改」は目的語のより良い結果が得られることが含意するので、(18)に示すように修正後の状態を表す必要がない。また、この場合の「改」は修正する対象を目的語に取るので、(19b)のように修正前の状態を前置詞「従 NP（NP から）」の形で表わす必要がない。

(18) a. 老師 **改** 了這個錯別字。（先生はこの間違えた字を直した）
　　b.?老師把這個錯別字 **改** <u>成了對的字</u>。（先生はこの字を間違えた字から正しい字に直した）

(19) a. 老師 **改** 了這個錯別字。（先生はこの間違えた字を直した）
　　b.?老師把這個錯別字 <u>從錯別字</u> **改**了。（先生はこの間違えた字を間違えた字から直した）

変更を表す「改」も、修正を表す「改」も“あるモノに働きかけをし、前と異なる状態にする“というのが中核的な意味である。本稿では変更を表す「改」と修正を表す「改」を区別する必要がないと考え、「改」の概念構造を(20)のように表す。概念構造では変

更前後の状態にあたる変項 w と変項 z は、どちらも明示する必要がないので、括弧の中に入っている。

(20) **単独動詞「改」の概念構造**

$$[x\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix} ([\mathrm{AT}\ z]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w]) \end{pmatrix}\ ]]$$

ただし、ここで注意されたいのは、「改」の変項 y の性質についてである。修正を表す「改」の場合では、(21)に示されるように、働きかけをうける対象「這個錯別字」が目的語に選択され、変項 y に代入される。

(21) 媽媽 **改** 了這個錯別字。　(母はこの間違えた字を直した)

$$[x\ \mathrm{ACT\ ON}\ \underset{\text{這個錯別字}}{\underset{\Uparrow}{y_i}}]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix} ([\mathrm{AT}\ z]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w]) \end{pmatrix}\ ]]$$

一方、変更を表す「改」は、働きかけをうける特定の対象ではなく、上位概念を表す名詞を目的語に選択することができる。たとえば、(22a)の場合では、目的語に選択されるのは、「關島（グアム）」と「夏威夷（ハワイ）」の上位概念にあたる「度假的地點（バカンスの場所）」である。本稿は(22a)の概念構造を(23)のように表わす。「關島（グアム）」と「夏威夷（ハワイ）」はそれぞれ変項 w と変項 z に代入される。変項 y には「關島」と「夏威夷」の上位概念である「度假的地點」が代入される。つまり、変項 z と変項 w の上位概念がタイプ範疇（TYPE）を表す名詞として変項 y に代入される。また、(22b)に示すように、変更前後の場所が明示されない場合でも、上位概念を表す「度假的地點」が目的語に選択される。後で詳しく説明するが、単独動詞「改」のこの性質は「改 V」にも受け継がれると考えられる。

(22) a. 會長把度假的地點 <u>從關島</u> **改** <u>成夏威夷</u>。

(会長はバカンスの場所をグアムからハワイに変更した)

b. 會長把度假的地點 **改** 了。(会長はバカンスの場所を変更した)

(23) **「改」の概念構造の具体例**（(22a)を例に）

$$[x\ \mathrm{ACT\ ON}\ \underset{\text{度假的地點}_{\mathrm{TYPE}}}{\underset{\Uparrow}{y_i}}]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix} ([\mathrm{AT}\ \underset{\text{夏威夷}_{\mathrm{THING}}}{\underset{\Uparrow}{z}}]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ \underset{\text{關島}_{\mathrm{THING}}}{\underset{\Uparrow}{w}}]) \end{pmatrix}\ ]]$$

4　語彙的「改 V」

2 節に示したように、本稿は形態的、統語的、アスペクトの側面から考察し、「改 V」のうち、「改變」と「改寫」は語彙部門で形成されると分析した。しかし、同じく語彙

部門で形成されるにも関わらず、「改變」と「改寫」において異なる点が見られる。それは、(24)と(25)に示すように、「改變」は自他交替を起こりうるが、「改寫」はできないという違いである。この違いは「改變」と「改寫」において、「改」と後項動詞の合成仕方が異なることによると考えられる。4節では、「改變」と「改寫」を分けて考察を進める。

(24) a. 他 **改變** 了小寶。　(彼は小寶を変えた)
　　b. 小寶 **改變** 了。　(小寶は変わった)

(25) a. 他 **改寫** 了村上春樹的小説。(彼は村上春樹の小説を書きかえた)
　　b.*村上春樹的小説 **改寫** 了。　(村上春樹の小説は書きかえた)

4. 1　語彙的「改 V」タイプⅠ：「改變」

4. 1. 1　概念構造の合成パターン：内項の同定

「改變」は(26)に示すように、“ある対象に働きかけをして変更させる”という意味で用いられる。本稿では、「改變」の語彙概念構造は(27)のように表す。(26b)に示されるように変更後の状態は随意項で明示されなくてもよいので、(27)の概念構造では変項cは括弧に入っている。(27)に示す「改變」の概念構造と本稿が提案する「改」の概念構造を比較すれば、両者は同じであることが明らかである。語彙的「改變」に「改」の概念構造が受け継がれると考えられる。

(26) a. 曉華把小花 **改變** <u>成一個尤物</u>。　(曉華は小花を美女に変えた)
　　b. 曉華 **改變** 了小花。　(曉華は小花を変えた)

(27) **「改變」の概念構造**：$[a\ \mathrm{ACT\ ON}\ b_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [b_i\ \mathrm{BECOME}\ [b_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix}([\mathrm{AT}\ c]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ d])\end{pmatrix}]]$

(28) **「改」の概念構造**：$[x\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix}([\mathrm{AT}\ z]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w])\end{pmatrix}]]$

また、動詞「變」は(29)に示すように“変わる”という意味で用いられる。本稿では「變」の概念構造を(30)のように表わす。動詞「變」が「改」と結合する際、「改」の概念構造が主要部として受け継がれる。また、変項の同定については、(31)に示されるように、「變」の変項qは「改」の変項yと同定され、働きかけをうける対象を表す。変更後の結果状態を表す変項aは変項z、変更前の状態を表す変項bは変項wと同定される。

(29) a. 他 **變** 了。　(彼は変わった)
　　b. 他 **變** 成了一個畫家。(彼は画家になった)

(30) **「變」の概念構造**：$[q\ \mathrm{BECOME}\ [q\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix}([\mathrm{AT}\ a]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ b])\end{pmatrix}]]$

$$(31)\begin{cases}\text{「改」}: & [x\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix}([\mathrm{AT}\ z_j]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w_k])\end{pmatrix}]] \\ \text{「變」}: & [q_i\ \mathrm{BECOME}\ [q_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix}([\mathrm{AT}\ a_j]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ b_k])\end{pmatrix}]]\end{cases}$$

$$\rightarrow \text{「改變」}: [x\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix}([\mathrm{AT}\ z_j]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w_k]\end{pmatrix}]]$$

さらに、(32)に示される「改變」の自他交替の可能性も、本稿が提案する「改變」の概念構造によって適切に捉えられていることを示す。「改變」の概念構造において、「改」と「變」の内項同士が同定されることは義務付けられているが、「改」の外項は必ず統語的に現れなければならないという制約がない。したがって、(32a)に示されるように「改」の外項は統語構造上に表されてもよいが、(32b)に示されるように外項は抑制され、統語構造上に表されないことも可能である。

(32) a. 他 **改變** 了小寶。　(彼は小寶を変えた)

　　b. 小寶 **改變** 了。　(小寶は変わった)

4. 1. 2 「状態形容詞」と結合する場合

「改變」は(31)の概念構造に示したように、「改」の内項と「變」の内項が同定されることによって結合される。この合成の仕方は、「改」と状態形容詞が結合する場合にも見られる。(33)の「改良(改良する)」、「改善(改善する)」がその例である。(34) に示されるように、「改＋状態形容詞」は「改變」と同様に、「改」の概念構造が主要部となり、「改」の変項 y は「形態形容詞」の変項 q と同定されることによって形成される。ただ、ここで注意されたいのは、「改變」では変更後の状態は随意項で明示されないことが多いが、「改＋状態形容詞」では結果部分が明確に表されるという違いがある。それは、状態形容詞と結合することによって、変項 z は明確な意義素と融合することによると考えられる。言い換えれば、状態形容詞と結合することによって、「改」の概念構造内で BECOME の項の部分が定項で満たされる。また、(35)と(36)に示すように、「改＋状態形容詞」は「改變」と同様に、自他交替が起こりうる。この事実も、「改＋状態形容詞」は「改變」と同様に内項の同定によって形成されると仮定する支持的根拠となる。

(33) a. 學校 **改善** 了食堂的伙食。　(学校は食堂の食事を改善した)

　　b. 電腦工程師 **改良** 了這個程式。(プログラマーはこのプログラムを改良した)

(34)「改＋状態形容詞」の概念構造　(「改善」を例に)

$$\begin{cases} \text{「改」:} & [x\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix} ([\mathrm{AT}\ z]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w]) \end{pmatrix}]] \\ \text{「善」:} & [q_i\ \mathrm{BE\ AT}\ [\mathrm{GOOD}]] \end{cases}$$

→「改善」: $[x\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_i]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_i\ \mathrm{BECOME}\ [y_i\ \mathrm{BE\ AT}\ [\mathrm{GOOD}]]]$

(35) a. 學校 改善 了宿舍的伙食。　(学校は宿舎の食事を改善した)

b. 宿舍的伙食 改善 了。　(宿舎の食事は改善した)

(36) a. 電腦工程師 改良 了這個程式。(プログラマーがこのプログラムを改良した)

b. 這個程式 改良 了。　(このプログラムは改良した)

4. 2　語彙的「改 V」タイプⅡ:「改＋作成動詞」

4. 2. 1　概念構造の合成パターン:手段関係による結合

「改寫(書きかえる)」は"既存のモノに対する作成の行為によってそれを別のモノに変更する"という意味である。3節で述べたように、「改」は"あるモノに働きかけをし、変更させる"という意味を表し、変更後の状態は変更前と異なるということが含意されるので、結果状態は明示されなくてもかまわないという性質を有する。この性質は、「改寫」にも受け継がれると考えられる。本稿では「改寫」を(37)の概念構造に設定する。「改」は後項動詞「寫」と手段関係によって結合される。「改寫」では「改」の概念構造が主要部である。「改寫」は(38b)に示すように、変更後の状態を明示しなくてよい。また、「改寫」では働きかけをうける対象が目的語として表わされる。(39b)に示されるように、変更前の状態を前置詞「従(から)」の形で表すことが容認されにくい。

(37)「改寫」の概念構造

$$\begin{pmatrix} [x_i\ \mathrm{ACT\ ON}\ y_j]\ \mathrm{CAUSE}\ [y_j\ \mathrm{BECOME}\ [y_j\ \mathrm{BE}\ \begin{pmatrix} ([\mathrm{AT}\ z_k]) \\ ([\mathrm{NOT\ AT}\ w]) \end{pmatrix}]] \\ \mathrm{BY}\ [a_i\ \mathrm{ACT}]\ \mathrm{CAUSE}\ [\mathrm{BECOME}\ b_k\ \mathrm{BE\ AT}\ c] \end{pmatrix}$$

(38) a. 他把村上春樹的小説 改寫 成了舞台劇。(彼は村上春樹の小説を舞台劇に書きかえた)

b. 他 改寫 了村上春樹的小説。　(彼は村上春樹の小説を書きかえた)

(39) a. 他 改寫 了這篇小説。　(彼はこの小説を書きかえた)

b.?他 把這篇小説 従這篇小説 改寫 成了舞台劇。

(彼はこの小説をこの小説から舞台劇に書きかえた)

4. 2. 2　後項動詞の特徴:作成動詞

手段関係によって結合する「改 V」は「改寫」に限らない。(40)に示すように、作成

動詞「建(建てる)」、「造(造る)」、「編(編集する)」などは「改」と結合し、「改建(建てかえる)」、「改造(造りかえる)」に結合することができる。本稿では「改造」や「改建」のような後項動詞が作成動詞の「改 V」は、いずれも「改寫」と同様に(37)のような概念構造を持つと考える。(41a)と(42a)に示すように、「改造」なども変更後の結果状態は明示しなくてよい。また、(43b)(44b)に示されるように、「改造」や「改建」においても、変更の対象は目的語で表わされるため、前置詞「從（から)」の形をとって表すことが容認されない。

(40) a. 我 **改建** 了這間日式民宿。　(私はこの日本式の民宿を建てかえた)
　　b. 我 **改造** 了這台箱型車。　(私はこのワゴンカーを作りかえた)
　　c. 我 **改編** 了這套百科全書。　(私はこの百科事典を改編した)

(41) a. 我 **改造** 了這台車。　(私はこの車を作りかえた)
　　b. 我把這台車 **改造** 成新型跑車。　(私はこの車を新型スポーツカーに作りかえた)

(42) a. 我 **改建** 了這棟女生宿舍。　(私はこの女子寮を建てかえた)
　　b. 我把這棟女生宿舍 **改建** 成電腦教室。(私は女子寮をパソコン教室に建てかえた)

(43) a. 我 **改造** 了這台箱型車。　(私はこのワゴンカーを作りかえた)
　　b.*我從這台箱型車 **改造** 了這台箱型車。
　　(私はこのワゴンカーをこのワゴンカーから作りかえた)

(44) a. 我 **改建** 了這棟女生宿舍。　(私はこの女子寮を建てかえた)
　　b.*我從這棟女生宿舍 **改建** 了這棟女生宿舍。
　　(私はこの女子寮をこの女子寮から建てかえた)

4. 3　まとめ

本稿の提案では、「改變」と「改＋作成動詞」は語彙部門で形成されると主張する。いずれも「改」の概念構造が主要部である。また、本稿が提案する「改變」と「改＋作成動詞」の概念構造は項構造に反映すると考えられる。「改變」は基本的に項を二つとるが、動作主が抑制される場合、内項のみが統語構造上に具現化されることもある。「改＋作成動詞」も項を二つとるのが一般的であるが、変更後の状態が具現化される場合は、(45)に示されるように、項を三つ取ることも可能である。このような事実は、「改」の概念構造が主要部として「改變」と「改＋作成動詞」に受け継がれることを支持する根拠になる。

(45) a. 我把這間日式民宿 **改建** 成了旅館。(私はこの日本式の民宿をホテルに建てかえた)
　　b. 我把這篇小説 **改寫** 成了電影。　(私はこの小説を映画に書きかえた)

また、アスペクト素性についても、なぜ語彙的「改 V」は [+DURATIVE] の素性を持つかは、本稿が提案する概念構造によって説明できる。それは、「改」は継続の素性を持たなくても、後項動詞の中にある動作が継続相の意味を表す可能性をもつことによって説明できる。

5　統語的「改 V」

5. 1　概念構造の合成パターン：埋め込み構造

統語部門で形成される「改 V」は(46)に示すように“変更した結果、後項動詞が表す事象をする”という意味で用いられ、後項動詞の概念構造全体が変更した後の結果事象を表す。本稿では、統語部門で結合する「改 V」は(47)に示すように、動詞「改」の概念構造内に後項動詞の概念構造が埋め込まれるような意味合成パターンを提案する。つまり、統語的「改 V」では、目的語は後項動詞によって選択され、後項動詞と一まとまりをなして、「改」の着点にあたる変項 z に埋め込まれる。

(46) a. 我 **改弾** 鋼琴。　(私はピアノを弾くことに変更した)

　　b. 我 **改打** 排球。　(私はバレーボールをすることに変更した)

(47) 我 **改打** 排球。　(私はバレーボールをすることに変更した)

$$[x_i \text{ ACT ON } y_j] \text{ CAUSE } [y_j \text{ BECOME } [y_j \text{ BE } \begin{pmatrix} ([\text{Not AT } w]) \\ ([\text{AT } z]) \\ \Uparrow \\ (x_i \text{ PLAY VOLLEYBALL}) \end{pmatrix}]]$$

統語的「改 V」において、後項動詞の概念構造が変項 z に埋め込まれるとするならば、変項 y と変項 w は何であろうかを考えてみよう。(48) に示されるように、統語的「改 V」では、変更の対象、すなわち、変項 y は明示されないことがほとんどである。しかし、変更の対象は話題化して、統語構造上に具現化される表現もある。(49b) と (50b) はその例である。その場合、(49b) と (50b) に示されるように、話題化した変更の対象は名詞句ではなく、「後項動詞 + NP」の形で表わされるのである。また、この要素が表す事象は変項 z と変項 w の上位概念に限られる。たとえば、(49a)「改吃牛肉」の場合、「吃牛肉（牛肉を食べる）」の上位事象、「吃肉（肉を食べる）」が変項 y に代入される。(50a) では、「喝紅酒（赤ワインを飲む）」の上位事象、「喝酒（お酒を飲む）」が変項 y に代入される。変項 y に上位概念事象が代入されるという点では、統語的「改 V」は単独動詞「改」と共通している。3 節に示したように「改」には、変項 w と変項 z の上位概念が変項 y に代入されるという特徴がある。その特徴は統語的「改 V」に継承されると考えられる。

(48) a. 我 **改喝** 綠茶。　　(私はグリーンティを飲むことに変更した)
　　b. 他 **改吃** 牛排。　　(彼はステーキを食べることに変更した)
(49) a. 我　　**改吃** 牛肉。(私は牛肉を食べることに変更した)
　　b. 我 <u>吃肉</u> **改吃** 牛肉。(お肉を食べることについては、私は牛肉を食べることに変更した)
(50) a. 我　　**改喝** 紅酒。(私は赤ワインを飲むことに変更した)
　　b. 我 <u>喝酒</u> **改喝** 紅酒。(お酒を飲むことについては、私は赤ワインを飲むことに変更した)

また、変項 w は変更前の状態を表わし、統語構造上に具現化されないことが多いが、文中に表される場合は、(51b) と (52b) のような動詞句の形で表現される。このように変項 y、変項 w に名詞句ではなく、動詞句、つまり事象が代入されるという事実は、後項動詞が表す事象がまるごと変項 z に代入されると考える根拠になる。本稿では、統語的「改 V」の概念構造における着点項に後項動詞の概念構造が埋め込まれ、対象項としては、後項動詞の上位概念事象が代入されると仮定する。

(51) a. 我 **改打** 排球。(私はバレーボールをすることに変更した)
　　b. 我之前 <u>打籃球</u>, 現在 **改打** 排球。
　　(前はバスケをしていたが、今はバレーボールをすることに変更した)
(52) a. 我 **改種** 百合。(私は百合を植えることにした)
　　b. 我之前 <u>種蘭花</u>, 現在 **改種** 百合。
　　(前はランを植えていたが、今は百合を植えることに変更した)

5. 2　後項動詞の特徴

これまでは、後項動詞が他動詞の場合の「改 V」を見てきた。しかし、他動詞に限らず、自動詞も統語的「改 V」の後項動詞になりうる。たとえば、(53a)、(54a) と (55a) に示されるように、「走(歩く)」、「游(泳ぐ)」、「跑(走る)」は「改」と結合することが可能である。「走」、「游」、「跑」などは目的語として“様態”、“距離”などを選択し、“様態”などと一まとまりをなし、変更後の結果事象を表す。ここで特に注意されたいのは、この場合の「改走」、「改游」、「改跑」は必ず“様態”、“距離”などを目的語にとらなければならないということである。自動詞「走」、「游」、「跑」だけでは、(56) に示されるように「改」と結合することができない[1)]。

なぜ“様態”、“道具”などの目的語が必要であろうかを考えてみよう。本稿が提案し

---

1) この場合は「跑 (走る)」や「跳 (跳ぶ)」を名詞化にしなければならない。
(i) a. 我 **改用** 跑的。(私は走ることに用いたことに変更した)
　　b. 他 **改用** 跳的。(彼は跳ぶことに用いたことに変更した)

た統語的「改V」の概念構造は、動詞「改」の概念構造内に後項動詞の概念構造が埋め込まれる。その対象項として、後項動詞の上位概念事象が代入される。(56)に示した自動詞「走」、「游」、「跑」は、上位概念となる事象が想定しにくいため、「改」と結合することができない。そこで、“様態”“距離”などを目的語にとると、(53b)、(54b)と(55b)に示すように、その上位概念が想定しやすくなるため、「改」と共起できるようになる。この事実も、本稿が提案した統語的「改V」の概念構造を支持する根拠になると考えられる。

(53) a. 他　**改走** 小碎歩。（彼は小幅で歩くことに変更した）
　　b. 他 <u>走路</u> **改走** 小碎歩。（歩くのは、彼は小幅で歩くことに変更した）
(54) a. 他　**改游** 仰式。（彼は背泳ぎで泳ぐことに変更した）
　　b. 他 <u>游泳</u> **改游** 仰式。（泳ぐのは、彼は背泳ぎで泳ぐことに変更した）
(55) a. 我　**改跑** 五圈。（私は五周を走ることに変更した）
　　b. 我 <u>跑步</u> **改跑** 五圈。（走るのは、私は五周を走ることに変更する）
(56) a. *我 **改跑** 了。（私は走ることに変更した）
　　b. *他 **改跳** 了。（彼は跳ぶことに変更した）

5. 3　まとめ

「改」の概念構造は統語的「改V」に受け継がれる。それは統語的「改V」の項構造にも反映する。統語的「改V」は二項動詞としてしか用いられることができない。後項動詞が活動動詞の場合は(57)に示されるように、「改V」は項を二つとる。また、後項動詞が非能格動詞の場合でも、(58)に示すように必ず“様態”、“距離”などを目的語にとらなければならない。(59)に示されるように統語的「改V」は一項動詞として用いられることはできない。本稿が提案する統語的「改V」の概念構造は「改V」の項構造にも正しく反映されていると考えられる。

(57) a. 我 **改喝** 紅酒。（私は赤ワインを飲むことに変更した）
　　b. 他 **改彈** 鋼琴。（彼はピアノを弾くことに変更した）
(58) a. 我 **改跑** 五圈。（私は五周を走ることに変更した）
　　b. 他 **改走** 小碎歩。（彼は小幅で歩くことに変更した）
(59) a. *我 **改跑** 了。（私は走ることに変更した）
　　b. *他 **改跳** 了。（彼は跳ぶことに変更した）

6　まとめ

本稿ではモジュール形態論に基づき、「改V」は語彙部門で結合する「改V」と統語

部門で結合する「改 V」の二種類があると提案し、それぞれの概念構造、結合仕方を分析した。結論として、「改 V」の両面性は語形成部門、意味合成のパターンに関係すると説明した。本稿の研究を通じ、モジュール形態論の考え方は、中国語複合動詞形成一般に共通するものであることを示唆する。本稿の分析結果から二種類の「改 V」の違いを踏まえ、「改 V」に対応すると思われる日本語複合動詞「V かえる」「V 直す」との比較を通して「改 V」の二面性を概念構造によってより明確にすることを今後の課題としたい。

主要参考文献

影山太郎『文法と語形成』ひつじ書房、1993.

影山太郎『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版、1996.

王蓓淳「中国語複合動詞「改 V」の意味概念と統語構造」KLS28. 327-337、2008.

王蓓淳「中国語複合動詞『改 V』」の意味概念と項構造」第 17 回国際中国言語学年会予稿集、2009.

由本陽子「動詞から動詞を形成する語形成における下位範疇化素性の受け継ぎについて」『言語文化研究』27. 453-473、2001.

由本陽子『複合動詞・派生動詞の意味と統語　モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房、2005a.

由本陽子「V ＋かえる」と「V ＋直す」の意味と統語」『日本語文法』5 巻 2 号. 110-127、2005b.